

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年1月23日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691200291
法人名	株式会社 ニチイ学館
事業所名	ニチイケアセンター国分 グループホームニチイのほほえみ
所在地	鹿児島県霧島市国分剣之宇都町9-6 (電話) 0995-48-6623
自己評価作成日	平成26年9月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokennsaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成26年10月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 1、アットホーム的な雰囲気
- 2、家族が気兼ねなく訪問できるホーム
- 3、笑い声が絶えないホーム
- 4、皆が楽しめるレクリエーションの工夫
- 5、工夫された食事提供
- 6、場所的に幹線道路より離れている為静かな所であり、危険性も少ない

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○空港に近い霧島市国分の郊外に位置し、県道沿いに建てられた施設で、近くに商業施設や学校がある。道路側は広い駐車場で、建物の周囲は田畑が広がっている為施設内はとても静かである。同敷地内に居宅介護支援事業所やデイサービス、ヘルパーステーションがあり、様々な在宅サービスに対応できる施設環境となっている。

○地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念である「ほほえみ理念」のもと、近隣の施設との交流や地域行事への参加、事業所の夏祭りやニチイ祭りの開催、職場体験の受入れなど地域の一員として積極的に交流を図っている。また、霧島市主催の福祉祭りや高齢者対策の行政事業に参加し、行政との協力体制に取り組んでいる。

○センター方式の「基本情報」「暮らしの情報」、霧島市独自の「私のアルバム」にて利用者の意向や希望の把握に努めながら、馴染みの人物や場所への関係継続支援が提供出来るように取り組んでいる。利用者職員間、職員と管理者の相互の信頼関係が良好で、業務ミーティングによる業務改善や家族の協力とコミュニケーションスキルの向上にて日常生活支援、サービスに関する意見の反映がされている。

○接遇研修やプライバシー保護に関する研修、身体拘束をしないケアの研修等、職員研修を充実させ、より質の高いサービスが提供出来るよう取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りの際、理念を唱和し確認を行う。入居者様にどのような支援が必要か、どのように対応していけば良いか、安心して生活して頂けるよう理念に基づき入居者様の心に寄り添い実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念である「ほほえみ理念」を掲げ、日々の申し送り時の唱和で職員への意識づけを図っている。ミーティング等でも理念の意義を振り返り、利用者が安心して過ごせるように日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方を招いて、レクリエーション等参加して頂いている。 (踊り、太鼓、手品 等) 地域の行事などに思うように参加に繋がらない。 避難訓練を実施する際に、地域の方々に参加して頂いている。	地域の行事や行政が主催する福祉祭り等には積極的に参加しており、事業所が合同で主催する夏祭りやニチイ祭り等にはボランティアも含めて多くの地域の方々に参加して頂いている。また、近隣の施設との交流や職場体験学習の受入れ等、事業所自体が地域の一員として日常的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	包括支援センターとの連携を取り地域の方や家族会を利用し認知症についての勉強会を行う。今後も単独事業所では出来ないので協議会を通して活動に参加していきたい。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度実施し、活動報告を行っている。行政・民生委員・自治会長・ご家族・入居者の方から2名の参加・近隣の施設の管理者の方々から、提案や地域の情報の入手、助言を頂いている。	行政、民生委員、自治会長、家族代表、利用者、近隣の他施設の管理者等多くの関係者の参加を得て2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。事業所の現状報告や行事・問題点について活発な意見交換が行われ、委員からは助言や提案を頂いている。今後の課題については、ミーティング等で職員が話し合い業務改善を図ることでサービスの質の向上に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	7月7日に行政の指導があり、霧島市が今後活用するものを提案して下さる。また、分からない事は、連絡・相談することで、快く対応して下さる。	行政の担当者には運営推進会議への参加のほか、介護保険申請やサービスの相談等に適切に助言や指導を頂いている。また、高齢者対策に関する行政事業の状況等も適宜説明を頂くなど、日頃より協働してサービスの質向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月の業務ミーティング前に身体拘束委員会を行い、身体拘束を起こさないよう予防策を中心に支援方法の検討を行っている。そして、身体拘束委員会の中で話し合った事を業務ミーティングで発表しスタッフ全員で共有するようにしている。	身体拘束委員会を設置し、マニュアルも整備して全職員が身体拘束をしないケアについて正しい理解に努めている。特に言葉による拘束や4点柵、車椅子の抑制、玄関の施錠に関する事など、身体拘束をしないケアの実践に向けて、研修会やミーティングで検討を重ねて適切なサービスが提供できるように日々取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務ミーティングの中でマニュアルに沿って研修を開催している。支援方法や声かけについて気になるところは、その場で注意し合える環境にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在必要性がなかった為研修を行っていない。今後、研修を開催していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>会社独自のアンケートを取り、確認を行っている。ご家族から質問があった際には、その都度、説明を行い、理解を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日常生活の中で入居者様が不安な表情をされたり、不穏状態になった時には、外に出て風景を見たり、事務所で話しやすい環境を作っている。ご家族の面会時には、入居者様の現在の状態報告や、今後の支援について話し合いを行い、検討している。</p>	<p>面会や行事等での来訪時の会話とともに、電話連絡や運営推進会議の対話、意見箱の設置、アンケート調査の実施、日常支援時等の会話など、利用者や家族からの意見や意向を伺う機会を多く設けている。内容を職員は共有してミーティングにて話し合い、業務改善につなげることで意見の反映に努めている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>スタッフ全員で話し合う場合は月1回の業務ミーティング時しかないが、問題や提案がある時は、BS法を用いた話し合いを行いより良い支援方法を決めている。その情報を共有する為に、管理日誌・介護記録・申し送りの中で記録・報告を行っている。</p>	<p>BS法を用いたスタッフミーティングや個別相談等、運営に関する職員の意見や希望を聴く機会を多く設けている。把握できた内容から必要に応じてサービスの見直しを行い意見の反映を図っている。また、各種の関係書類を活用して情報の共有を図り、ケアの統一と職員統制に活かしている。職員の資格取得も積極的に推奨している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>役割分担を行い、責任を持って仕事が出来るようにしており、役割があることでチームワークがとれている。労働時間は業務内容が多く、大変ではあるが、シフト制であり、お互いに調整しながら勤務している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症介護は基礎知識が大事であるので、外部研修に参加したりし、研修後には業務ミーティングで伝達しスタッフ全員で学習できるようにしている。休日でも都合がよい時には自主的に外部研修に参加している。業務ミーティングの中では、マニュアルを用いた内部研修を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>サービス事業連合会の会合や勉強会に参加している。特に若いスタッフは様々な情報の中で学び向上する事が大事であると思われる為、積極的に参加を勧めている。今後も連合会の開催する交流会や勉強会、ツアー等への参加をしていきたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>信頼関係を築くためには、入居者様がこれまでの生活や家族、近隣住民・ペット等の関係性を繋ぎながら信頼関係を築くようにしている。入居当初は、環境の変化により不安感がある為、声かけを密に行い傾聴している。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>在宅生活介護の事や入居者様への思いを傾聴して思いに寄り添う。入居してからの様子や混乱がある事を話しておくことで家族とスタッフが信頼関係を持ち共同して取り組めるようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居後の様子や、入居時、最初は混乱がある事を話しておくことで信頼関係を持ち共同して取り組めるようにしている。また、医療面に関しては十分に話を聞き、医療との連携を取るようになっている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>声かけを行い、洗濯物を豊んで頂いたり、食器拭きや後片付けなどを一緒に行っている。女性入居者様からは「雨が降ってきたよ」等教えて下さる事がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態が変化した時や介護方法を統一した方がよい時等家族に連絡して話し合いを行い、家族の希望を聞き、入居者様の安心安全を第一として家族にも協力や意見を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に尋ねられるホームである為面会に来て下さった際は、入居者様と過ごす時間を大切に頂けるよう居室にて日常会話をさせて頂いている。	アセスメントやインテーク時の聞き取りを始めとして、センター方式の「暮らしの情報」や霧島市独自の様式である「私のアルバム」などを効果的に活用しながら、馴染みの人や場所との関係性が継続出来るよう適切に支援している。また、利用者のご家族や知人の来訪時には、主に居室でゆっくりと過ごせるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士でのトラブルも発生する。ストレスを感じて閉じこもる事もある為、スタッフが介入したり、座席を変えて気分転換を図って頂くようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	緊急入院し退所された利用者のご家族が、退所後も利用者様の状態報告やホームでの楽しい思い出話などをされている。家族からの問い合わせや相談があれば誠意をもって対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの習慣や家族から生活歴を聞き出し支援をしている。意向をはっきりと確認が出来ない入居者様もいるがご本人の理解できるコミュニケーションの方法でしっかり説明を行う事を大事にしている。	「私のアルバム」の活用や日常支援時の聞き取り等から利用者の希望や意向の把握に努めている。困難な場合には、日頃の暮らしの中で利用者の表情やしぐさ、態度の見守りから把握に努め、ご家族の協力も得ながら本人本位のサービスとなるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から了解を得て、サービス利用のあった施設や前任の介護支援専門員より注意する事や疾病、生活歴等を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理強いせず出来る事を声かけを行い日常の作業に参加して頂くようにしている。症状も同じ所にとどまっていなので新しい情報はスタッフ全員で共有し支援を行う。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時や更新時に担当者会議を開催している。モニタリングは随時行っている。また身体状況の変化等必要に応じて家族・スタッフ間で連携を取りながら細やかな支援の方法について話し合い実践している。	本人・家族の意向や希望を踏まえて、ミーティングやサービス担当者会議、定期的なモニタリング等を繰り返し、現状に即したケアプランとなるようにチームでケアプランを作成している。身体状況の変化等に応じて必要な見直しを行うなど、適切なサービス提供が図れるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画書を基に介護スタッフが支援シートを作成する。また、管理日誌や介護記録で情報の共有化を図っている。月1回の業務ミーティングの中でBS法を用いて話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	問題に気付いたスタッフから問題提起があり、勤務しているスタッフ間で話し合いを行っている。計画書や支援シートに反映しない細かい検討もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の行事やクラブに依頼をするがニーズがマッチしない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回往診が5名。家族対応で病院受診される方が3名である。ホームでの変化やバイタル・体重の変化等情報を共有し適切な指示が頂けるようにしている。ご家族からの要望なども往診時に主治医に報告を行っている。ご家族への報告も行っている。	定期的な往診と家族対応の病院受診にて本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を適切に支援している。ご家族や医療機関との診療情報の共有や医療連携体制の整備を図り、適切な医療・介護が提供出来るよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護師はいないが、通所の看護師に報告や確認をするなど臨機応変の対応をしている。主治医との連携や家族に報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はスタッフが随時面会に行き、主治医・担当看護師などにも面談し状況を把握し報告・連絡・相談を主治医・家族と密に行い連携を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期をどのようにするかは担当者会議開催時に家族や入居者様に具体的な対策方法を説明し承諾された旨を計画書にて署名・押印をいただく。事業所で出来る事をスタッフで共有し体制を整えている。	重度化や終末期に向けた事業所方針については、契約時に本人・家族の意向・希望を踏まえた上で、事業所で出来る事を口頭にて説明し、契約内容に付随する事業所方針を理解していただいている。重度化した場合は、ご家族、本人、関係者の話し合いのもと、協力医療機関等を含め、地域の関係者がチームとなり、診療情報の共有、医療連携を図りながら適切なサービス提供に努める意向である。	現在、事業所の看取りの実績はないが、介護の重度化と終末期に向けた緊急時の対応を必要とする場合が今後必然的に想定される。事業所の方針を書面にて明文化する事で、事業所の適切なケアの提供につながり、利用者・家族にとっても安心・安全な施設生活を送れる為、今後本部との対応を図っていただくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法は外部研修で行っている。また緊急連絡網を掲示している。業務ミーティングの中でマニュアルに沿って研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>日中・夜間それぞれを想定した避難訓練を年2回以上行っている。同敷地内の通所事業所と合同で行い協力体制を取っている。地域の方や近隣施設の方にも声かけを行い参加して頂いている。</p>	<p>夜間想定も含めて火災に対する避難訓練を年2回併設の施設と合同で実施している。全職員が避難・誘導・消火・連絡に関する方法を身につけ、地域の方々や近隣施設の協力も得て訓練に取り組んでいる。また、自動通報装置やスプリンクラーの設置と共に、食料や飲料水・必要な備品も整備されている。職員はAED講習にも参加している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや話しかける際には入居者様の尊厳に配慮をしスタッフ一人ひとりが注意を払えるようにしている。また声かけが不足したり入居者様の誇りやプライバシーを損ねる言葉かけになる事があるのでその都度注意し合い業務ミーティングの中で勉強会を行っている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライド、自尊心などに配慮した声かけや対応の実践に努めている。接遇研修やプライバシーを含めた個人情報保護に関する研修等も行い、ミーティングの際の勉強会でもケア時に適切な対応が常に実践できるように全職員の意識づけを図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	不穏な行動がみられた時には入居者様の話を聞き、個々に合った説明を行い納得して頂いている。また事務所や居室で不満や不安を聞き出せる環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の行きたい場所（例えば外）、食べたいもの等、入居者様の生活のリズムや思いを考慮し希望に添えるような支援を目指している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	普段着と寝間着の区別をし支援を行っている。衣類の選択が出来る入居者様は、入浴時の着替えや外出時の衣類を選んで頂くようにしている。靴下・下着は毎日履き換えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下拵えや後片付け、野菜作りや収穫を行っている。食事スタッフとともに会話を楽しみながらとっている。	決められた献立は特になく、利用者の希望や自家菜園で収穫された旬の食材に応じた料理の提供に努めている。きざみ食やとろみ食など個々に合わせた食事や季節の行事食、バイキング形式やテラスでの食事など工夫し、楽しい食事の提供に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・体重の確認を行い無理強いする事がないように個々のタイミングを見ながら摂取して頂いている。入居者様のペースで食べて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは毎回行っている。舌苔はスタッフが介助を行うようにしている。入居者様の能力に応じて声かけを行い、ジェスチャーを用いた説明を行い出来るだけ入居者様にして頂く。仕上げ磨きをスタッフが行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意のある方はトイレまで誘導を行い、尿意のない方・訴える事が出来ない方は排泄パターンを把握し誘導時間を個別に行っている。失禁の少ない方は日中は布パンツ、夜間のみリハビリパンツを使用するなどし自立に向けた支援を行っている。	生活リズムや排泄パターンを把握した上で排泄の失敗やオムツ使用の軽減に努めながら、排泄の自立支援に向けて取り組んでいる。失禁者やトイレへの誘導については、自尊心や羞恥心、プライバシーに配慮した声かけや対応に努め、排泄チェック表やポータブルトイレは、目立たないような場所に配置する等の工夫が感じられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量は個別に把握し排便の有無を確認している。便秘薬は主治医の指示で個別の便秘リズムで服薬介助している。また乳製品や乳酸菌飲料、食物繊維を取り便秘にならないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	月曜から土曜日の午後は入浴可能であり、一番風呂が好きな方は声かけを行うようにしている。入浴は個別であり拒否された際は声かけの工夫をしたり、時間をおいて声かけを行っている。	利用者の希望に応じた入浴支援に努め、個浴対応で利用者毎にお湯を張替え清潔に配慮しながら、身体状況に応じた安全な入浴介助を行っている。入浴拒否の利用者については、声かけを工夫しながら入浴を促している。体調不良時は清拭に切り替えたり、必要に応じて軟膏塗布も行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	横になりたいと希望される方や傾眠見られる方に声かけを行い居室で休んで頂いている。また横になるのを嫌う方には無理のない姿勢で休息を取って頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないように一包化をお願いしている。またスタッフでダブルチェックを準備の段階、服薬介助の段階で行っている。かねての状況の把握をしっかり行い副作用に気をつけ観察している。(血圧関係、睡眠導入薬パーキンソン病薬、下剤など)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑で花や野菜づくりをしたり歌、囲碁、将棋、ボールを使ったゲーム、日光浴など入居者様の得意なレクリエーションや行事を実施している。季節ごとに行事を計画・実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気候に合わせて外出の機会を作っているが多くはない。ご家族の協力を得て花見や外食・地域の行事に参加する事もある。今後も可能な限り計画していきたい。	天候や利用者の健康状態に合わせて日光浴や散歩をするように努めている。移動販売車(パン屋)を利用するのも利用者の楽しみになっている。隣公園への弁当持参の外出、近隣施設の方々との交流など可能な限り戸外で過ごせるように配慮している。また、ご家族の協力も得ながら花見や初詣、地域行事への参加等、楽しく外出できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者様は金銭を所持していない。必要なものはご家族に購入して頂いている。入居者様から「お金を持ってない」と言われる事があるが、その都度説明を行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や親族にはいつでも電話の取り次ぎは可能である事は説明している。家族によってはホームからの家族への電話は仕事の関係もあり迷惑な場合があるので個々の能力に応じた説明を行い納得して頂いている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>温度や湿度は随時確認を行っている。廊下の壁には入居者様の写真を掲示しており、運動をする時等写真を見ながら会話を楽しんでいる。個々の居室からの景色を見て過ごす時間も作っている。</p>	<p>木造平屋で、利用者の安全に配慮して玄関の出入り口や、廊下のスペースを広くとってある。カウンターキッチン の台所からは利用者の様子がいつでも伺え、洗濯物を畳んだり、くつろぎ憩いの場にもなる畳のスペースがある。食堂の窓からは温かい光が入り室内は明るく、横にはテラスがあり木をふんだんに利用した内装は利用者に落ち着きを与えている。加湿器・除湿機も活用して居心地のよい共用空間作りに努めている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールでは座席は指定せず、好きな所に座って頂くことを基本にしているがトラブルになる事があるのでスタッフが気を付けて誘導する事もある。また、気の合う入居者様同士でもいつも一緒にいることで関係性が崩れてしまう事があるので気を付ける。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具や寝具はもちろんのこと、置物やぬいぐるみ・トロフィー・写真など持ち込んで頂いている。</p>	<p>事業所が準備したものの他、テレビやベット、写真等、利用者がこれまでに使い慣れたなじみの品々を家族と協力しながらレイアウトすることで、居心地よく過ごせるよう居室の工夫に努めている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレの場所や居室が分かるように表示してある。安全面ではバリアフリーになっており、手すりを配置してあるので動きやすい環境になっている。転倒リスクの高い方の居室にはマットを引き対応している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない